

開催趣旨・意義

花や緑との関わりを通じて、自然と共生した持続可能な幸福感が深まる社会の創造を提案、横浜から明日に向けた友好と平和のメッセージを発信します。

開催趣旨・意義

国際園芸博覧会の趣旨

時代認識

SDGsの達成に貢献し、その先の社会も見据えた日本モデルの提示
—実現に向けた取組の方向性—

Society5.0の展開
グリーンインフラの実装

グリーンインフラの
実装

花き園芸文化の振興等を
通じた農業・農村の活性化

日本・横浜発の「グリーンシティ」の発信提示

都市生活が自然とともにある未来を市民・民間企業・行政が共に考え、行動を起こし、アイデアを形にする取組を展開することにより、先進的な「グリーンシティ」を提示

花を国・造・豊の振興

花き園芸・造園・農
の発展に向けた
取組の加速化

日本の花き園芸
文化・造園文化の
再評価と発信

伝統的な
花き園芸・造園技術
の保全・継承

遺伝資源の保全

開催理念・テーマ

花や緑、農、食は、我々の命を支え、暮らしを支え、また、世代、民族を超えて人々に感動や笑顔をもたらしている。我々人類は、植物をはじめとした自然に生かされており、生命の潮流と循環の中で生きていく。世界が経済的な豊かさを主体とした対比的な充足から、質的成熟社会への転換期にある中で、2027年に開催される本博覧会は、改めて植物の自然資本財としての多様な価値を再認識し、持続可能な未来と誰もが取り残されずに社会の形成に活用するとともに、自然との共生や時間・空間を含めたシェアアースがもたらす幸福感を、新たな明日の風景として可視化していくことを目指すものである。

テーマ 幸せを創る明日の風景

~Scenery of the Future for Happiness~

自然との調和

緑や農による共存

新産業の創出

車携による解決

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 2023年1月

全体概要

名 称 : 2027年国際芸博覧会
博覧会種別 : (International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan)
開催場所 : 国際位 クラス (AIPH承認 + BIE認定)
開催期間 : 旧上瀬谷通信施設 (神奈川県横浜市)
博覧会区域 : 2027年3月19日 (金曜日) ~ 9月26日 (日曜日)
参加者数 : 約100ha (内、会場区域80ha)
 : 1,500万人 (地域連携やICT活用などの多様な参加形態を含む)
 (有料来場者数 1,000万人以上)

△圖誌余録▽

会場建設費 320億円

(財源：国、地方公共団体、民間による負担)

運管費 360億円

(財源：入場料、營業権金等)

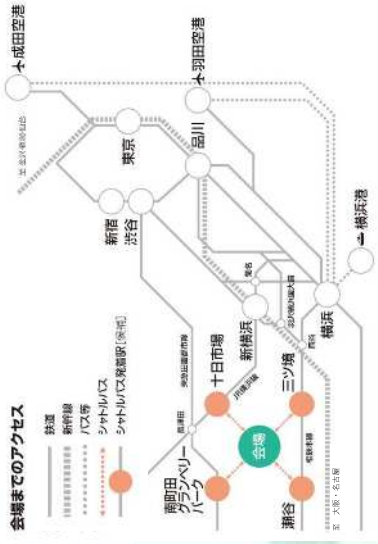
横浜・旧上瀬谷通信施設について

横浜市は、1859年に国際港として開港以降、園芸植物の玄関口となり、ユリを代表として数々の植物が海外へ輸出されるとともに、バラやチューリップなどの西洋の花の輸入の先駆けとなるなど、日本の花き貿易の先進地となり、我が国の優れた植物や園芸文化を発信し続けてきました。

会場は横浜市の郊外部（旭区・瀬谷区）に位置する旧上瀬谷通信施設であり、2015年に米倉から返還された約24haの広大な土地で、そのうち約100haが博覧会区となり、農地や緩やかな起伏の草地など豊かな自然環境に囲まれています。長年にわたり土地利用が制限されてきたことから、南北に流れる相沢川、和泉川の源流部、谷戸地形等の貴重な自然資本が残っています。

輸送アクセス

- ・ 周辺各駅からのシャトルバスによる輸送
- ・ 空港や主要ターミナル発着場からの直行バス
- ・ 会場外駐車場を確保
「パーク&ライド」



スケジュール

2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
・B/E認定、基本計画策定				・チケットプロモーション		
	・参加国招請開始			・会場整備着工	・開会	

幸せを創る明日の風景

～Scenery of the Future for Happiness～

幸福感につながる人と植物のこれからの関わり方を示し、自然共生社会の実現に向けた新たな暮らしのモデルを提案します。

花 緑 農 食 大地 交流

多様な主体が創りあげる圧倒的な花と緑

主催者庭園

主催者による国際園芸博覧会のシンボルとなるガーデニング。季節ごとに咲き誇る花の変化が楽しめる。横浜の歴史・文化も演出

屋外出展

公式参加者（国や国際機関）や一般参加者が出展する庭園等。世界各国の多様な花き・園芸、造園技術や地域ごとの特色ある出展を体験

屋内出展

日本が誇る文化や伝統とともに、今後の花と緑、農の在り方のほか、最先端の造園・緑化技術や農業技術等を世界に発信

日本国政府出展

多くの人々を惹きつける圧倒的で魅力的な空間を創出

主催者によるシンボル展示

来場者が“自分にとっての自然とのつながり方”を発見する展示体験を創出。バイオフィリア*の考えのもと、リアルとデジタルの融合で、主として日本の植物資源の展示を展開する。

※人間が自然と交わりたいと望む本能的な欲求

技術の向上、産業の発展を促すコンペティション

- 庭園及び花き等のコンペティションに加え、本博覧会独自企画のコンペティションを実施
- 需要拡大・輸出拡大等による我が国の花き園芸・造園産業の発展を目指すとともに、多様な産業界が連携する枠組等も検討



自然環境を生かした会場

- 自然環境がポテンシャルを取り入れた会場
- あらゆる主体がつながり、将来につなげる会場
- 誰もが使いやすい会場

これからの時代にふさわしい会場運営

- 持続可能性に配慮した運営
- 安全・快適の運営と感染症対策の徹底
- ユニバーサルサービスの提供
- ICTの積極活用

産学官・市民の連携

Village

博覧会協会が設定するテーマに応じ、民間企業、教育・研究機関、市民等が共創してコンテンツを提供



Farm to Table STREET

気軽に旅をするように、世界中の風景・食・文化、人とのふれあいを五感で楽しむ食体験事業



Park Pavilion

本博覧会の趣旨に賛同する企業のビジョンを特徴ある魅力を備えた庭園とともに表現、新しい風景づくりを企業と実施



本博覧会のテーマ、活動の継承

会場の一部は公園として整備され、本博覧会の理念・テーマ等を継承・発展・発信する拠点となる。『「みどり」で広がる暮らしの風景』をテーマに、多様な主体（利用者）の参画と連携により、自然と人をつなげ自然とともに生きる持続可能な多様なライフスタイルを醸成

参加と連携を促すコミュニケーション活動

開催前から、企業・団体・行政機関・市民等との連携を推進するコミュニケーション活動、SDGsの行動促進を目的とした教育活動等を展開



コモンズを中心に展開する多彩な行催事

催事施設で行う開会式・閉会式・ナショナルデー・スペシャルデーをはじめ、会場内に複数配置した参加型交流拠点「コモンズ」における主催者や企業・自治体・市民団体等の多様な主体の催事ににより、参加者に楽しさや驚き、感動を与え、本博覧会のテーマを効果的に発信

2023年1月現在 会場イメージ 今後の調整状況により変更になる可能性がある。

